

同窓会だより

1984年11月10日

大阪市立大学工学部同窓会
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目
3-1-138 TEL06(692)1231(代)
発行人 井田憲治



ごあいさつ

同窓会会長 井田 憲治

会報も第4号が発行されるように、大阪市立大学工学部の同窓会が益々発展の一途を辿っていることは御同慶に堪えません。工学部内では工作センターの充実や、40周年記念事業の企画があり、同窓生のみなさんの協力を大いに期待しているところであります。

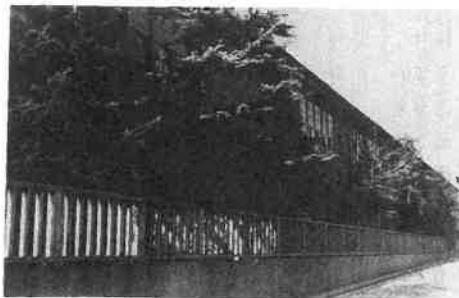
さて、今年も1年の終盤が近づいてまいりましたが、今年もいろいろと話題の多い年でありました。とりわけ、冬の厳寒と、夏の酷暑には異常と云えるものもあり、社会的にも経済的にも得失が大きかった年と云えるのではないのでしょうか。また、地震の発生が多さと、台風の数少なさが目立ったのも今年の特徴ではないかと思はれます。殊に、王滝村における地震の被害、即ち、直下型の地震の恐ろしさは地震国日本の宿命を如実に証明したものです。地震動による土石流の発生も、今後の新しい研究課題となるのではないのでしょうか。

この一連の内陸での地震は、昨今広く報道されている太平洋プレートの潜りこみによる東海沖に予想される大規模な地震とは構造的に異なるようです。しかし関東から東海地方の住民の関心事は、予想される東海沖地震でありましょうし、また、その予知のため学界、行政等あらゆる分野に亘って研究・観測が行はれ、被害を少なくしようとする努力が払はれていることも当然のことでしょう。関東・東海地方では、地震時の避難ルート、避難場所、食料の備蓄など訓練や対策に大きな労力をかけていると聞き及びますが、翻って、関西地方の我々の週辺をみると、その対策はあまり積極的でなく、住民自身も大きな関心を寄せていないように見受けられますが、やはり全国的な立場で取り組むものではないのでしょうか。東海沖地震の予知研究は大いに進んでいるようですが、地震が予知され、これが発表されたのちの住民の行動は如何なるものになるかが社会的にも政治的にも重要な問題です。各機関は、地震予知を受けた住民の、その後の心理的な動揺と、その結果出てくる個人的な、集団的な行動を、秩序よく敏速に誘導するための工学的な機能の完結に鋭意取り組んでおられ、先進的な対策を樹立される努力を傾注されていることでしょう。

我々も工学者の一員として、地震予知とその後について多くの情報、研究を提供し、ソフト面においても、ハード面においても、震災被害を最少限に留められるよう地域を問はず、工学の総結集を図るよう大いに努力すべきものと考えます。

会報4号の発行にあたり、最近一連の地震から得た雑感を述べさせていただきます、ごあいさつといたします。

(土木・昭和30年卒・神戸市交通局参事)



都島工専桃ヶ丘学舎(市大100年史より)

同窓の皆様へ



名誉会長 安藤 慶一

今世紀もあと15年となり、大阪とその周辺には21世紀に向けての各種計画が次々とたてられ活気を呈して参りました。大阪市には市制100周年記念事業の一環として高度技術の開発や情報通信機能の充実を目指しての「テクノポート

大阪」などの計画があり、国は新近畿創生計画、いわゆる「すばる計画」を進めており、関西文化学術研究都市計画は軌道に乗りはじめました。また近畿の各自治体は研究学園都市やテクノポリスを計画し、エレクトロニクスや生命工学などの先端技術を核とした産・学・住のバランスのとれた未来都市づくりに意を向けしておりますし、大阪の官・学・産の三者からなる大阪創造技術協議会は先端技術の創造と活用を目的として技術情報センターや、産業技術大学校などの開設を考えています。このような大きな流れの中で地域社会への貢献が一つの使命でもあるわが大学、なかでも科学技術の研究と教育を担う工学部としては、今後どのように社会的ニーズに整合しながら発展して行くべきかが大きい課題であろうと思います。

ところで、昨年3月から今年10月にかけてかなりの人事異動がありました。奥田滋(電気工学科)、星野達郎(機械工学科)両先生が定年退職され、名誉教授になりました。また、堤四郎、志水英二(以上電気工学科)、森島直正(機械工学科)のお三方が教授に昇任され、応用化学科では平井竹次教授が着任されました。さらに、助教授には高田直俊、山田優(土木工学科)両先生が、講師には、東恒雄(機械工学科)、青笹正夫、藤原直賀人(電気工学科)、浜田学昭(建築学科)、倉田克彦(土木工学科)の5名の先生が昇任されました。助手には、逢坂勝彦(機械工学科)先生が前川善一郎(現京都工芸繊維大助教授)先生の後任となりました。一層の御活躍と御発展を期待したいと思います。

社会の急速な発展に相応して、大学も20年先を考え、いかに改変すべきかを組織、制度、施設にわたって広く検討し、計画するためにマスタープラン策定委員会を設け、全学的に作業が進められております。また、100周年記念事業の一環であります工作技術センターもようやく立派な建物が完成し、各種工作機械も据え付けられ近々開所される運びになっております。

昨年は旧制都島高等工業学校が創設されて40年目に当り、三瀬前工学部長の御提案で工学部創立40周年記念事業を行なうことが決定され、昨年の秋からその計画と準備を行なって参りました。幸い同窓会の御協力を得まして後援会が設立され、いよいよ実施の運びになりました

ことは誠に御同慶の至りであります。当学部は、たとえその規模は小さくとも研究と教育の面においてユニークな内容と高い水準をもつ魅力ある学部となることが望まれますが、この40周年記念事業が今後の学部の飛躍的発展の契機となります様祈念致しております。

(工学部長・電気工学科教授)

機械工学科の今日此の頃

玉村謙太郎



今年は記録的な残暑でしたが、皆様にはお変わりありませんか。早いもので、この間第1号を拝見しましたのに、もう第4号の発刊と聞いて今更ながら年月の速いのに驚いています。同窓会がますます隆盛のごお慶び申し上げます。

社会の技術進歩が息苦しさを感じられる今日此の頃ですから、皆様の身边にも、いろいろ技術革新の波が押し寄せていることと推察致します。それにしては技術の先端を研究している筈の大学における、いろいろの事柄の変化は一見まことに緩やかな気がします。もっともかつての大学紛争においては多くの事が良きにつけ悪きにつけ大きく変化致しました。そして今、定着すべきは定着し、不具合な点はそろそろ再検討されるべき時機にあるような気が個人的にはしております。

緩やかとは申せ、時の流れで機械工学科にもその後幾つかの変化がありました。時間的には前後した記述になりますが前号までには紹介のなかった事を含め概略ご報告したいと思います。生者必滅会者定離とは申せ、退官後もお元氣そのものだった古市名誉教授の三回忌が今夏でした。「流体工学」の星野教授が定年退官となり後任に森島教授が同講座の担当として誕生しました。機械力学および繊維工学は「機械設計工学及び繊維機械」と名を改め上田教授が担当しております。また同講座に南斎講師、流体工学に東講師が誕生し講義に新風を吹込んでいます。さらに「熱工学および化学機械」に野邑奉弘助手が着任「材料力学」の前川助手は京都工芸繊維大学へ助教授として栄転その後任に逢坂勝彦助手が着任しました。体調の良くなかった水川助教授、中山助教授も一線復帰、技術職員の板見、工藤、橋本の三氏もかなりおじさんになりましたが頑張っています。

最近では海外との交流も多く、国際会議へ出かけたり外国からの研修生を受け入れたりする機会が増えてきました。メカトロニクスの時代を反映して当科の卒業予定者に対する企業からの求人は異状なまでの高まりようです。

しかし在学生には「求人が多いことと、望めば好きに行けることとは別だ」と言い聞かせて基礎学力を養うようくどくど言い聞かせております。先輩としてご活躍の諸氏からも、時には「世間はそんな甘いもんじゃないで」とお話し頂きたいものです。では皆様のさらなるご活躍とご健康を念願致しております。(機械工学科・主任教授)

電気工学科の近況



奥本 隆昭

最近の電気・電子工学の発展はその速度を増しつゝあるように思えます。このときにあたり卒業生の皆様には益々の御活躍のこととお慶び申し上げます。

電気工学科では竹屋教授、北浜教授、奥田教授が相次いで停年退官されましたが、昨年4月堤 四郎教授が電気回路学の、また志水英二教授が電子回路学の講座担当者となりました。また、当学科で一番の長老安藤慶一教授がこの4月より工学部長に着任されました。工学部並びに当学科の新たな展開が期待されます。なお本年4月、電気計測工学講座青笹正夫先生が、本年10月、情報工学講座藤原直賀人先生がそれぞれ講師に昇任されました。今後、益々の教育・研究の充実に努めたいと思います。

現在の電気工学科は次のような多岐にわたる活発な研究活動を行って居ります。

電気回路学講座(堤四郎教授、鈴木裕講師、南繁行助手) 上層大気の力学的研究、宇宙空間プラズマに関する研究、極域異常現象の研究。

電子回路学講座(志水英二教授、松下賢二助手、重田和夫助手) オプトエレクトロニクス、光情報処理、空間変調器、セラオトマタ、マイクロコンピュータとその応用。

電気通信工学講座(山下一美教授、細川省一助教授、岡本次郎講師、浜裕光助手) 音声・画像情報の高能率符号化方式、音声分析・合成・認識、ローカルエリアネットワーク、視聴覚神経系における情報処理、パターン認識、医用画像の計算処理と自動診断の応用。

電気計測工学講座(安藤慶一教授、前川義治講師、青笹正夫講師、草間稔助手) 薄膜EL素子の多色化と低電圧化、アモルファスシリコン薄膜の生成と応用、グロー放電重合薄膜によるプラスチック表面の改質、海洋環境計測。

電気機器学講座(安藤慶一教授、建部渉講師、渡辺博巳講師、森下 昂助手) 小形電気機器の特性改善、パワーエレクトロニクスの電気機器への応用、海洋汚染の

調査研究。

情報工学講座(奥本隆昭教授、藤原直賀人講師) 学習認識システム、音声・画像情報の分析・認識、並列処理アルゴリズム、ファジリアルゴリズム、発見的学習行動、データ通信における誤り制御方式、コンピュータネットワークに関する研究。

なお、本年の就職状況ですが、求人会社は700社にもおよぶうれしい悲鳴をあげています。就職希望者は修士5名学部23名ですが、そのほとんどが電気・電子メーカーを希望しています。卒業生諸兄の御支援を感謝しております。(電気工学科主任教授)

応用化学科だより

原納 淑郎



同窓会諸兄姉には益々ご健勝の上ご活躍のこととおよろこび申し上げます。隔年毎の教室だよりをお届けする候となりました。

最近、教員の動き2件がありました。昭和57年10月有機工業化学講座の玉垣誠三助手が講師に昇任されました。教育・研究両面で一層の活躍をされております。

つぎに、長年空席のまゝでありました無機工業化学(第一)講座担当に、昨年10月岡山大学工学部より平井竹次教授が着任されました。簡単にご紹介しますと、平井教授は昭和27年京都大学をご卒業後直ちに松下電器産業に入社、電池の開発研究に従事され、昭和40年新学科増設に伴い岡大にご転出、42年合成無機化学講座担当教授として教育・研究に専念してこられました。ご専門は電池工学・電極反応論などで、旧第一講座の研究分野を十分カバーしうる立場にあり、基礎・応用両面にわたって深い学識と豊富な経験を持っておられます。すでに、就任直後から同研究室の力強い躍動が始まっております。ここに更めて、志半ばにして急逝されました長浦茂男先生のご冥福をお祈りする次第であります。

以上から、当学科は教授5、助教授4、講師6、助手6、技術員1、計22名の全陣容が整いました。加えて、恒例により9月初旬大学院の入試も激戦のうちに終り、新修士合格者も決定し、すでに新年度に向けて一同意気軒昂であります。今後、それぞれの分野で、教育・研究・国内外の学会活動等、その実を挙げるべく全力投球の努力をする所存であります。同窓会の皆様にはよろしく御支援の程お願いいたします。

最後に、第一講座と大学院応用化学専攻の第六講座に相当する原子力基礎研究所・放射線高分子部門(菌頭健

吉教授、椎名 教助教授、山口英昌助手)の研究活動分野を以下に紹介させていただきます。

無機工業化学講座：電池工学、電極反応過程の解析、電極触媒、有機電解反応解析、浅海環境科学等。

放射線高分子部門：太陽エネルギーの化学変換ならびに電導性材料開発研究の一環として、金属錯体の光化学反応および金属を含む機能性高分子の合成等。

なお、教員構成および他の4講座の研究分野については本会報第2号、当時の天津陸行主任教授の紹介記事をご参照下さい。諸兄姉の一層のご清祥とご活躍をお祈りいたします。(応用化学科主任教授)

土木工学教室の近況報告



小田 一紀

今年久しぶりに2名の女子学生が入学しました。ハードだと思われていた土木工学分野への女子の進出も最近の新しい傾向なのでしょう。

さて、土木教室では、最長老の三瀬教授が本年3月に3期3年の工学部長の重責を退かれ、来年3月のご定年を控え、今年は専ら研究室の若手研究者の指導に全力を注いでおられます。6月に山田助教授の学位取得(アスファルト混合物の力学的性質とアスファルト舗装の供用性に関する研究)を実現され、自らもアスファルト舗装の破壊機構の解明に情熱を燃やしておられます。西堀助教授は、現在コンクリートの付着と支圧強度の研究を、また真嶋助手はこの数年ガラス繊維補強コンクリートの研究を進め、多くの成果をあげています。

三笠教授は近年活発な国際活動をされ、この10月初めにはアメリカの土木学会主催の圧密シンポジウムで、長年ご研鑽の圧密理論を展開されました。昨年10月には国内の大学では最大の、直径5.1mの遠心力載荷装置を新設され、益々旺盛な研究意欲で後進の指導に当たっておられます。この載荷装置を用いて高田助教授と東田助手は地下埋設管の変形と応力の研究を進め、望月講師は粘性土斜面とロックフィルダムの変形と安定性の研究を行なっています。東田助手は、また中華人民共和国石油工作部海洋石油公司研究院から留学の史エ忠氏の勉強を助けながら、Ko圧密粘土の力学的特性の研究も進めています。

中井教授は曲線桁橋の設計法に関する研究を続けておられ、この9月にバンクーバーで開催された国際橋梁構造会議で論文を発表され、その足で北田助教授が留学中のロンドン大学のインペリアル・カレッジを訪ねてこられました。現在教室最年少の酒造助手は鋼製ラーメンの耐荷力と設計法に関する研究をしています。

園田教授はいつもながら土木のオピニオン・リーダー的存在です。最近鉄筋コンクリート床版の疲労機構の究明に力を入れておられます。また、この9月には堀川助手の学位取得(直交異方性厚板の弾性理論とその応用に関する研究)を実現されました。小林助手は各種平板の動的応答の解析において優れた成果が期待されています。

土木教室のデータ・バンク的存在の西村教授は今年6月から約2ヶ月半、文部省在外研究員としてイギリス、アメリカへ出張され、その傍らPTRC国際セミナーで研究発表されました。最近は、土木施設の計画と維持管理システムおよび居住区における交通環境の評価を、岡村助手および日野助手と共にご研究になっています。

最後に、筆者は教室主任を仰せつかり、今年は研究室全員が何かと多忙な毎日を送っています。小生は久保講師らと船舶を含む浮遊構造物の係留問題と大水深海洋構造物の地震応答と波力問題の研究を続けています。倉田講師は航走波とその影響の研究を手掛け、9月初旬にその成果をヒューストンで開催された海岸工学国際会議で発表しました。角野助手は直立消波堤体の波浪制御機能に関する境界値問題の解析を続けています。

なお、昭和33年ご卒業の北村章氏(鉄建公団青函建設局長)が、アメリカ土木学会の栄えあるローランド賞(個人論文)を、本年10月わが国で初めて受賞されたことをお知らせすると共に、皆様の一層のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。(土木工学科主任教授)

応用物理学科の近況



横田万里夫

今年は技術社会の変化を反映してか、就職は思いの外によく、そのため学生諸君に気のゆるみが出ないかと、心配になる程です。新卒者の御指導を先輩諸氏にお願い致します。

さて本学科の長老兼松太教授は不幸にも病に倒れ、その後回復に向われているとの事ですが、本学科一同一日も早く元気なお姿をと願っています。兼松研の美馬宏司講師、藤井康夫助手は林野正善技術職員等の協力の下で、真空計測・質量分析計および固体表面をしらべるためのオージェ分光法などの研究を進められている。

大倉熙教授は森雄造助手等と共に、イオン結晶F中心でのホット・ルミネッセンスの観測等精度の高い研究を進め、多数の成果を国の内外で発表している。

村井昭教授は曾我部伸講師と共に、CO₂レーザー及びそれによる分光学的研究を行っている。

西村仁講師はイオン結晶、有機半導体中励起子のダイナミクスをしらべる研究で成果をあげている。

笹沼道雄助教授は、CO₂レーザーによる多光子過程の研究等を行い、石黒英治助手はイギリスから歸朝後新しい分光測定器の開発と共に、新しい分野への意欲をもちしている。

人見宗男講師、北田忠義助手、串部宏之助手の3人は瀬戸内海の汚染、特に播磨灘の赤潮発生機構を対象に各種の物理的素過程のケーススタディを続けている。

横田万里夫は非線型分光の理論を開発し、4波混合系などに適用している。谷本脩助教授は、分子の電子構造の問題から、巨大分子の結合問題、ソリトン等へ研究の巾をひろげつゝある。

全工学部の応用数学を担当している鶴飼正二助教授は、非線型偏微分方程式の研究で国内外で活躍している。

以上のように、応用物理学科は研究費不足になやまされながら、それなりの成果をあげてきました。今後卒業生の皆様のご援助をうけながら、更なる発展を期しております。(応用物理学科主任教授)

創立40周年記念事業委員長から

工学部同窓生各位へ

本文が同窓生の皆様のお目にとまるときには既に、工学部創設40周年記念事業に関する趣意書などがお手もとに届いていることと存じます。重ねて失礼ですが一言お願い申し上げます。趣意書にもごさいますように、昭和18年に前身とも言うべき都島工専が戦時中に創設され、昭和24年の新制大学の設立時、大阪市立大学理工学部として新しく発足し、10年後の昭和34年に理、工は分離し工学部として独立、現在に到って居ります。工学部としても25年、創設以来40年を超えました。その間、都島工専、理工学部を含めすでに6,000名を超える卒業生を輩出各界で活躍しておられます。そこで、この度、40周年記念事業を計画し、各種の行事を企画しました。中でもその目玉は卒業生と現職教員との間の対話の場として「学术交流センター」(仮称)の建設であります。これには多額の資金を必要としますが、これを同窓の皆様のご協力に仰ぐこととなり、目下募金中であり、時節柄、諸費用多端の折ではございますが、同窓会館ともいうべきこのセンターの建設に一人でも多数の方々のご協力を心よりお願いする次第です。

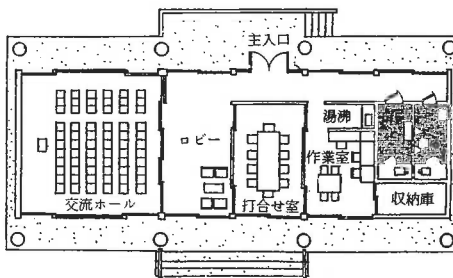
昭和59年11月

創立40周年記念事業委員長 東野一郎

(注)工学部が計画された創立40周年記念事業(事業費3,000万円)は以下の通りです。

1) 工学部学术交流センター(仮称)の設立

工学部現教員、旧教員、卒業生、産業界の研究者等が相寄り、学術的、技術的諸問題について談話、討議することによって互いの技術交流を図り、各専門分野はもとより境界領域あるいは新技術の発展と育成に資することを目的として、工学部内に設ける。(計画平面図参照)



2) 記念講演・式典・祝賀会の開催

昭和59年11月23日、東洋ホテル(大阪市大淀区)

記念講演(13:30~15:30)

工学と都市資源問題……三瀬 貞(工学部教授)

公立大学の使命……森川晃樹(相愛大学学長)

記念式典(15:30~16:00)

祝賀会(16:00~18:00)……[会費12,000円]

3) 記念講座(21世紀の技術をめざして)の開催

大阪市立大学文化交流センター11月講座を、記念講座として各学科の卒業生の提言を主に講成。

6日午後6時~8時:「40周年記念講座について」東野一郎(教授・事業委員長)、「レーザーの応用」村井 昭(教授・事業委員)。

10日午後2時~4時:「エレクトロニクス技術の進歩と市民生活」山岡秀嘉(機38卒・シャープ(株)中央研究所室長)、「ニューメディア;これからの情報通信の展望」土屋浩一(電40卒・近畿日本鉄道(株)技術研究所課長)。

17日午後2時~4時:「人工膜の未来;生体膜に挑戦する」川端康治郎(化45卒・通産省工業技術院化学技術研究所主任研究官)、「町づくりと住まい;その創造的技術を求めて」石村勇二(建28卒・(株)RIA建築総合研究所専務取締役)。

●24日午後2時~4時:「超高速輸送システムの展望」草木陽一(土34卒・国鉄施設局管理課長)、「現代の宝石LSI;大規模集積回路素子」仲矢茂長(電28卒・沖電気工業(株)基盤技術研究所所長)。

ルイーネ
廃墟の歌



林野 全孝

Am Brunnen vor dem Thore……焼け野原の中、廃墟となった都島学舎の一隅から男性合唱が流れる。敗戦直前の8月の始め、F教授の独乙語の時間である。この時期に学徒動員を解除してまで学業に戻った学校は恐らく希有であっただろう。工専1期生はこうして9月末卒業まで、終戦を挟んで講義を受けていた。

それにしても狂乱の戦時下、連日の空襲におびえながら、独乙歌曲を教わったときのことは、今でも鮮明に残っていて、不思議に心安まるひとときであったことが思い出される。F(藤野渉)教授はジンメル哲学の第一人者で後に名大教授になられたとき。

ところで戦時下、絶対にゲートルを巻かず、名札を付けない先生が何人が居られた。土木のK教授、数学のH講師など。当然大政翼賛会という変な団体からは白眼視されたと思うが、私達はこれらの先生には内心敬意を表したものである。当時は歌を歌うことですら非国民と言われたことを思うと、平和の有難さをしみじみと思う。

(建築・昭和20年卒・京都市立大学生生活科学部教授)

ガラクタ展

竹中 清和



卒業前のその頃、世は廃墟と飢え、思えば戦後の暗い背景があった。だが当時の思い出の中にその様な暗い映像は意外な程消えうせている。寧ろ学生時代の自由と明るさがそれらを打消していた様に見える。ある日学内で各自の作品展

が開かれた。空腹と睡魔に耐え、髪の手前のエナメル線の巻数を読み乍らトランスを巻いた。材料は全て廃物から得たものだった。廃物と云えば空襲で落っこちた閃電のトランスを持ち帰った友人は思えば何に使ったのであろう。自分の作品は記憶にないのに多分太田君作と思う携帯ラジオと日根君の電解装置が記憶に残る。

ラジオのケースは木箱乍らこじんまりとセットされ、器用な腕前が注目を集めていた。一方では金魚鉢の様なガラスケースの中でガスが発生していたが今はその道の権威となった彼の得意顔が浮ぶ。豊かになった昨今から見ると、将にガラクタ展としか云い称のないものではあった。然し廃物から創り出したさ、やかな情熱に発展めざましい現代のルーツがあったと見れば懐しい。

(電気・昭和22年卒・旭ガラス環境エンジニアリング㈱)

技術革新に想う



清久 泰一

最近のエレクトロニクスを中心とする技術革新は目をみはるものがあります。特にOA機器の新製品ラッシュは我々にとまどいを感じさせます。私は3年前オフコンを導入し使用しておりますが、去る8月21日同一メーカーの新製品の説明を受け只々技術の進歩に恐れ入るばかりです。

現在大学で学んでおられる諸君の何かの参考になればと思ひ一筆とりました。御笑読下されば幸です。今後(1)に先端技術を中心に技術革新が今以上の速度で進むものと思はれます。遺伝子工学も宇宙工学も軌道に乗るのではないのでしょうか。(2)に第三次産業就労者が全産業就労者の50%を越すものと思ひます。この様な将来を見る時に、今後技術者は専門技術の外に巾広い他の関連技術又経済・法律・会計学等の浅い知識も要求されるのではないかと思います。我々の学んだ時は日本の不幸な時代でしたのでより一層感ずるのではないかと思います。限られた紙面で充分意のある所を表現出来なかつたことが残念で又の機会をお願いします。

(機械・昭和22年卒・㈱サンヨー代表取締役)

光陰と主題

高橋 通男

光陰は、とても矢どころではなく、学習も幼くして始めてなお学はなり難いとも言える。しかし一方数多くのシステムやコンピュータによって、光陰をおし留め、学習成果を素早く得ることができる現在です。

そこで私たちの光と矢の課題は、何をどのようと言う目的、仮設、概念の整理の傍らで、インフォメーション、データを適切に手に入れて社会や周りのうごきを知って主題を予測することが重要となっている。

主題を実行に移すための解明には情報化技術に支えられているので、その予測が確かであれば、私たちは真に長い寿命と満ち足りた生活を享けられると考えています。

しかし、工学は実現の分野に強いつながりをもつことを使命づけられて、そこでは常に納得のゆくものを議論し生産し、また標準化する努力によって造り続けます。

私の周囲では、さまざまなグループや型式による議論がうず巻いています。近くすばらしいリズムにのって、住みよさが創りだされると思っています。

(建築・昭和22年卒・㈱竹中工務店設計部)

連帯を求めて

埜口 良二



私は学校を卒業して満37年がすぎました。この間運輸省の港湾建設局を経て、大成建設株式会社に勤務しています。いずれの勤務先にも同窓生が少なく、又大学や工学部同窓会とも疎遠な生活を過して参りました。ただここ10年位の

間に級会や工専の土木科の同窓会である都土木会（トドロキカイ）を作って、年に一回程度の会合を持っている現状です。近くの同じ様な経緯の大学（神大、徳島大名工大等）の特に土木関係の卒業生を見ておりますと学閥と云う様な強さがあります。大学や教授方との結び付きが強く、同窓会も盛んに開かれている様です。これらのことは就職から、同じ職場内での結び付き又仕事上での社会的な結び付きがとても強く、お互いが有効に利用して活躍している様に見受けれます。今過去のことを云っても仕方ありませんが、これからは土木関係の同窓会、工学部同窓会、大学との関係をより強め、工学部創立40周年記念事業を機会にこれらの点を見直し、より良い明日を作る様な気運が高まることを期待します。

（土木・昭和22年卒・大成建設(株)営業本部）

クラス会

小河一眞佐



工学部創立40周年を迎え御慶の至り心よりお喜び申し上げます。小生都島工専昭和26年建築科卒業の一人ですが、私達は工専最後の期（6期）にあたりそのしんがりをつとめたわけです。我々が最後まで、ダブってあとがない、何んとか卒業はさせてもらえるだろう。そんな手前勝手な甘えがあったかどうか分かりませんが各自思い思いに最後の学生生活を楽しんで送ったものです。

卒業以来その都度思い出した様にクラス会を催して居りましたが数年前より毎年の2月の土曜日に同じ場所で開催を定例に催して居ります。会名は六凡会です。今年も15人集まって昔話を花を咲かせました。卒業以来33年も過すと頭も薄くなったり、白くなったりしていますが当時の面影はやはり残っているものです。お互い年をとってくると同窓会にも出席して恩師、旧友に会って見ようかと云う気になってくるものです。ともあれ各人各職場で責任をもって日々の業務に精励しています。会報をかりてクラスの近況を御報告します。（建築・昭和26年卒・(株)小河建築設計事務所代表取締役副社長）

卒業後のあゆみ

成実 哲郎



評議員副松晃氏から久方ぶりに電話が来たと思ったら何を思ったか会報に何か書けと云うこと。卒業以来現在までのことを書いてお許しいただきたいと思ひます。早いもので30有余年日本の川に世界のダムに水を止め水を浄める水門

扉、水処理装置の設計一筋に人生をあゆんで参りました。おもしろいもので、卒業設計はボイラと云う今では陳腐化したものを得々と設計させていただき、お情で卒業させていただきました者が、機械・電気・土木工学にまたがった水に関連する鉄鋼構造物と云うものと、悪戦苦闘して参りました。専門図書も少なく、独・米・仏などの専門図書を参考に、見ようまね様で設計して参りましたが、最近では日本の技術の方が彼等より進んでいると思はれる様になり喜んで居る次第です。最近その動源をソーラにしたり、材料も鋼からゴム、FRP、さらに新素材へと変化しつつあり、さらにはコンピュータの組み込みと、ハイテクの波がおし寄せ、頭の切りかえに大わらわの毎日です。（機械・昭和26年卒・(株)丸島水門製作所取締役）

同窓会の発展を祈って

井上 保



工学部創設40周年を迎えお目出度うございます。昭和18年といえ、私は都島工業学校に入学した年で、同じ校舎に都島工業専門学校（当時は高等工業学校）の誕生した記憶が浮んでまいります。

昭和26年に工専最後の卒業生として社会に出て以来、それぞれの同窓会運営に首をつっ込んで、その運営のむつかしさをつくづく感じて居ます。

学会や同好会と違って、好むと好まざるとにかかわらず会員になる会であり、毎年かなりの会員数が増加していく会であり、下手をすれば役員のための同窓会になり兼ねない組織でもあるようです。でも誰かがやらねばならないことなんです。それにはどうしても会員一人ひとりの認識と、協力がなければ成り立たないものであることを知っていただきたいのです。

永い人生です。目前のことにこだわらず、先々を見つめることが必要ではないでしょうか。

（土木・昭和26年卒・大阪市交通局第1建設事務所長）

雑感

中島 光夫



学窓を出て早や27年の歳月が流れた。今回回らずもこの様にペンをとる機会を与えられたが、さてとなると……同窓の士とは年に一度、ハガキを交換するのみ、相寄ることもなく、ただ年月の流れるにまかせていた。お互いの建在を確かめあい、旧交を温める為にもクラス会の開催を呼び掛けなくてはと思うものの、日常の雑事に追われ、つい腰が上らず歯痒い思いをしている。

さて、現在企業間新製品開発競争の過中に身を置き、汎用ディーゼルエンジンの開発に従事しているが、ここ10年間の新製品開発スピードには目を見張るものがある。

各種センサーの開発・計測技術の長足の進歩・エレクトロニクスの発達・新材料の研究、等々、夫々の分野での研究成果に負う所大であり、国内外の学術情報と、独自に培ったノウハウとのドッキング、更にはメカトロニクスの応用で、より市場ニーズにマッチし、企業に貢献するエンジンの誕生を、後輩の成長・活躍と共に楽しみにしている昨今である。（機械・昭和32年卒・久保田鉄工(株)エンジン技術部主席）

南扇町の思い出

今井 雅也



理工学部を卒業して早や27年、9年振りに大阪勤務となり、南扇町を訪れたところ校舎跡は税務所と駐車場となっていた。折しも「みのる会」より井本稔先生の喜寿記念講演祝賀会が8月11日大阪ガーデンパレスで催されるとのご案内をいただいた。10年振りに先生のお元気な姿に接し、

又なつかしい研究室の方々にお逢いできうれしく思った。「有機反応と分子軌道法」と題した講演を拝聴し先生が今も研究の最先端に居られる事に感銘を受けるとともに、学生時代の事が思い出された。それは有機電子論だった。教室は校舎の南西角、3階の階段教室だった。教科書は先生の書かれた「有機電子論」であった。お話は非常にわかりやすく感じられたが試験の時は随分勉強しなければならなかった。講義の最後にその時間に進んだ頁数を示されたが、講義の内容はあまり書かれていないのが普通だった。先生はその後の新しいことを講義されていたのであった。最後に先生がお元気により長く研究を続けられる事をお祈りします。（応化・昭和32年卒・日本触媒化学工業(株)ポリマー加工研究所）

出会い

長町 守康

昭和26年市大理工学部・医学コース（3期生）入学、昭和32年同学部建築学科（5期生）卒業、6年間、安い授業料（入学時5000円／年、卒業時7000円／年）と、素晴らしい先生方（学問的にも人生の上でも偉大で敬愛申し上ぐべき）と、良き仲間達と扇町の質素な学舎に随分とお世話になった。——此の感懐は年々強まっている。

数年前、市大創立百周年記念式典に参列させて頂いた時、入学時の同窓数人に、実に4分の1世紀を経て再会した。互いに名札を確めながらも、面影丈は確かに覚えているものだと思ひし合ひ、ぼつりぼつりと互いの人柄をなつかしく思い出し合った。時と所を共にして、苦楽を味わった者同志の通じ合う心は、人生の事情を語る言葉の端々にも、一層味わい深く、共感と共にいたりや喜びを生んで尽きない。

人間同志の出合いの中で、本当に人生を豊かにし、喜びや慰めを与え合ひ、時に互いの心を向上へ向かわせるような出合いの機会はどうぞらにあるものでない。意図的であれ、偶然であれ、生まれたその機会に、互いに心の注ぎ合いがあって、その確め合いがあって、そして安心と信頼と喜びは生まれ出す。

同窓は何年間もの長い時間の中で、少なからず同じような目標に取り組みながら、互いの長所、欠点、得手、不得手も、性癖も、本音も建前も、能力の範囲や才能の高低さえも、内輪の事情も何もかも、時にはお尻のホクロも、程度の差こそあれ、さらけ出して易い状況に置かれるが、そこに人間として自然な心通じが在る限り、これ程すばらしい出合いの機会はないであろう。

だがクラス同窓会等と違って、時を異にし学科も異にする全学、学部等の同窓会は絶えず何か共通するテーマやターゲットの下に同窓である人間が先輩・後輩の区別なく集って、語り心を通じ合う機会を多く持つ事が出来る時、始めてその存在意義が確かなものとなるのではないかと思うのだが。（建築・昭和32年卒・(株)柄谷工務店 専務取締役）



理工学部扇町南・北学舎(市大100年史より)

先輩・後輩の結びつきをより強固に

吉村 悞



「先輩・後輩の間柄は血よりも濃い」と云った人があるが今それが時代と共に薄れてきているように感じるのは私だけであろうか。母校への意識や人と人との結びつきの深さに関係があるように思う。頼り甲斐のある先輩、可愛がられる

後輩がだんだん少なくなってきたのだろうか。互に何か働きかけてくれるのを待っているのだろうか。他の有名大学に比して歴史も伝統も浅い我が大阪市大工学部・せめて先輩・後輩の結びつきをより密に強固なものにしようではないか。創立40周年と云っても単なる積年ではなくその歩みと中味をよく顧みて次の50周年、100周年に向って大いに躍進しようではないか。

それには各自の働きかけの輪をもっと広げることである。これがまた仕事に生かせる近道でもあると信ずる。今お互に先輩・後輩として各自せねばならぬこと、そして互に何を求め合うのかをゆっくり考えようではないか。明日への大阪市大の発展と卒業生諸兄のために。

(土木・昭和32年卒・㈱大林組)

思い出

北林 進一



「光陰矢の如し」卒業以来すでに4分の1世紀以上過ぎ去りました。当時は理工学部として学舎は扇町に北南の2ヶ所に別れており、応用物理学科は北校舎、現在の北野病院の南向いにありました。また、応用物理ではなく、電子工学と

思っています。主として、三戸研究室、川村研究室からなっており、私は川村研究室の戸村先生に、卒業研究のご指導を受けました。当時は理工学部として物理の研究室へと親しく出入りし、海部先生を始め、研究室の諸先生方にお世話になりました。

卒業後あまり大学へは行かたかったが、三戸先生や海部先生の家へ押しかけて夜遅くまで話し込んだ事が強く印象に残っています。

さて、近年マイクロ・エレクトロニクスの技術の進歩はいちぢるしく、高度情報化の波が今や社会や家庭にまで、押し寄せようとしています。私たちはこれらの波にのまれることのないよう、人間性を大切に、科学を生活にうまく生かしていきたいと思えます。

(応物・昭和32年卒・シャープ㈱)

固有技術と管理技術

尾崎 俊夫



今も昼間は1時間に2本の便しかない大阪の片田舎、桜島に通い始めて丁度5年たった頃のことです。当時製紙関係の回転機械の設計に携わっていて初めて1人で客先へ製品の説明に行き、「私は機械屋です」では通用しないことを

痛感させられました。製品の引渡しからその後のフォロー、そして次の仕事へのつながりを含め、全体として機械屋はいつまでも客先とのつながりが深いことを考えれば当然のことなのですが。その後、仕事も単体から装置へと範囲も拡がりかつ多様化するにつれ、固有技術の専業、分業化が益々進んできましたが、いつもその時の苦い経験を忘れないように努めてきました。そして今、品質保証に関する仕事に携わるようになり、幅広い固有技術のマスターは勿論、さらに管理技術という点から「良い仕事の結果」は「良い仕事のやり方から生れる」と云う言葉の持つ意味、即ち仕事は、doing にいかに management を加味していくかということに思いをめぐらすこの頃です。(機械・昭和37年卒・日立造船㈱・陸機本部品質保証課)

扇町時代のこと

近藤 紘一



私達は、入学時、理工学部化学科に属していた。やがて時代の趨勢とともに理・工の分離が始まり化学、応用化学科どちらかの選択がせまられた。クラス討議を何回かさねても工学部に希望者がかたより、藤代教授に、それはたんに

社会通念を反映しているのにすぎないのではないかとたしなめられた記憶がある。いまとなつては、どのようにクラスを二分したかは、しかと思いつけないがさぞかしクラス代表はまとめるのに苦慮されたことと思う。その後、いわゆる60年安保の「挫折」を経て扇町での専門課程は比較のおちついていた感がある。当時の扇町学舎は昨今のキャンパスイメージとは雲泥の差があるオンボロ校舎であったが、数多くの新進気鋭の教官にめぐまれ、ほとぼる情熱で教育研究にあたられたことは何にもまして我々にとって幸せなことであった。いまだ、おりにふれて扇町時代の熱気が思いだされるのは、40才後半を向える私達の感傷のせいばかりではないであろう。

(応化・昭和37年卒・大阪大学工学部講師)

近頃思う事

八木 勝



卒業してから早や22年が経ちました。生来の筆不精・出不精で御不沙汰しています。

ところで、高炉メーカーの中の建築屋という狭い窓から世の中を眺めていましてこの22年、色々の変化がありました。高度成長期

の工場建設から始まり、次にはH形鋼拡販の為のサービス設計、更には世間の公害意識を反映した工場設備のリフレッシュ、そして現在は、鉄離れの世相に逆らって、附加価値をつけた鉄の拡販を目指して、鉄鋼構造物の設計・積算・施工に骨を折っております。これは独り建築屋だけに限らず、第一線の技術者として活躍されている先輩・後輩の諸氏も多かれ少なかれ同様の体験をされた事と思います。今後も低成長の経済環境、或いは技術の革新に伴って、様々の業務への対応を迫られる事と思いますが、とにかく建築の本筋だけは見失うまい、と考えたりしています。

同窓諸兄の御健斗をお祈りしています。

(建築・昭和37年卒・川崎製鉄(株)エンジニアリング事業部)

最近思うこと

村田 一夫



卒業して早や17年が過ぎ去り、一般に「中年」といわれる40才台になってしまいました。いつも何をやるにも20才台の若さの意識で(無意識のうちに)世間に接していたのが、ふと気がつくともう40才。35才位までは何とも思わなかった

のですが、40才が近づくとつれ、アッ!、アッ!という感じで日々が過ぎ去って行くようになりました。私より年上の方からみればまだ若いのに何を言っているかお思いでしょうが、本当に年の経過が早く感じられる今日此頃なのです。これは日頃何とはなしに業務や生活に追われやみくもに日々を過ごし、もういい年をしているのに未だ充分な働きもできず、もたもたとしている自分自身の心のあせりではないかと思っています。ところが同窓会から原稿を依頼され何か考えなければと、同窓会→学生時代と思い馳せた時、現在のこのような心境は全て学生時代の不勉強がもとではないかと気がつき、いまあわてて帰らない過去を反省している次第です。(機械・昭和42年卒・大阪府立工業技術研究所)

最近思うこと

片岡 二郎



猛暑もやっとなつて峠を越し、虫の音が聞こえる心地良い季節となつてまいりました。

先生方をはじめ、皆様方にはいかがお過しでしょうか。小生は、近年仕事にかまけ、大学の方には御無沙汰ばかり致しております。

毎日毎日を仕事に追われている内に、大学を卒業して早や15年が経ちました。私事ですが、下の子供も小学生となり、子供の仕草に、よく自分の子供の頃をダブらせてしまう昨今です。

最近やっとなつて社会の仕組みもわかりかけて来た様な気がしますが、この頃よく思い当る事の一つは、結局最後の拠り所は自分自身の気持の持ち方ではないかという事です。会社の事にしろ、私生活にしろ、とにかく楽しくなる様に考えて、これからもやってみようかと思っております。これからの皆様方のますますの御活躍をお祈り申し上げます。(電気・昭和42年卒・松下電器産業(株)生産技術本部)

10余年の教員生活を振りかえって

三浦 洋三



私が応用化学科教員として大阪市大工学部に勤務して早や10余年たちました。学生当時の杉本キャンパスは、一面雑草生い繁る原っぱでしたが、その後雀荘の数と共にキャンパスにも建物が建ち並び、今ではすっかり総合大学として整備され、最近では手狭な感じさえします。工学部も杉本キャンパスに移ってもうすぐ20年になりますが、壁、天井等に汚れが目立つようになりました。工学部は創立40周年を迎えましたが、創設当時の先生方も随分退職され、最近では第2世代に移りつつある感じがします。近頃強く感じるのは、全国最小規模の市大工学部が、乏しい研究予算と大型機器等の絶対的不足のもとでどう工学部全体の活性化を図っていくかという事です。我々教員にとって可能かつ最も重要な事は、教員が一丸となつて教育、研究に全力を注ぐことはもちろんの事ですが、他の国立総合大学と張り合うのではなく、市大工学部としてのユニークさを出せばよいと思います。そのためには、ユニークな研究もまた必要ではないかと思ひます。(応化・42年卒、応用化学科)

近 況

坂 壽二



我々同期生は毎年12月に同窓会を行ってあります。この会は実際には昭和38年入学生で構成されており、在学中によくクラス会をやっていた延長で、今なお続いています。大阪以外に勤務している人達も恒例になっているので時々参加してくれます。また10年に1度は1泊旅行を実施しています。従って、同期の交流はよく、仕事や生きがいなどを肴に、学生の頃のように口論しては酒を酌み交して、年を忘れていきます。

私は学部を卒業して以来、現在までずっと本大学において、とくに学生気質の移り変わりの激しさに驚かされると共に、科学技術の急速な発展を遂げている現在社会で負けない、また活躍できる学生を送り出せるよう教育研究に力を注がなければと自戒しています。先日ロンドンの郊外にあるサレー大学で開催された国際立体構造会議に出席しましたが、発展する今日の技術社会では、人間性を絡めた環境、経済性、種々の意味での省エネなどを考慮した技術生産が特に重要であることを痛感しました。

(建築、昭和42年卒、大阪市立大学工学部講師)

建設コンサルタントとしての雑感

山本 修章



現在、田舎で建設コンサルタントに従事しているが、シビルエンジニアリングと同様にこの意味を理解してくれる人が何人いるだろうか。

建設コンサルタントは、その規定を要約すると“公共工事に伴う専門的な科学技術に関する知識を必要とする調査、企画、立案、助言、設計、監督もしくは検査に係わる役務の提供者”である。現実にはこの中の調査や設計を主たる業務としており、一般に官公庁のハードの面を断片的に受け持っている場合が多い。今日その傾向は改善されつつあり、次第に近代社会における高度な知識産業の担い手としてのイメージが浮上してきたが、まだまだ経験不足であり、経営基盤の弱さもある。しかし、1つのプロジェクトをやり遂げていく上で、初期計画は益々重要度を帯びてきており、企業としても優秀な人材の確保が今後の課題である。建設コンサルタントの正確な認識を切に希望するものである。

(土木・昭和47年卒・清水コンサルタント(株))

私の技術観

山中 朗



私は、機械工学科卒業生としては、珍しく製薬会社に入社し、現在製造部工務課に勤務しています。仕事の内容は、化学合成設備の設計・工事・試運転ですが、運よく入社三年目で120億円の抗生物質製造設備を担当し、多くの経験を積むことができました。我々のような機械技術者は、機械だけでなく、化学、化学工学、電気を知ってこそ本当に優れた設備を作ることができるのです。このことは、製薬会社だけに限らず、他分野の企業でも同じだと思います。また技術者の目標の一つは、省力化と自動化ですが、エレクトロニクスの急激な進歩により目標に近づきつつある。設計施工では、CAD・CAMが導入され、工場全体としては、多品種少量生産を目指すFA化が進められている。このような情勢の中で、これからの技術者は、広い分野を学びかつ活用できる技術力を身に付けることと、急速な自動化に対応できる柔軟性を兼備しなければならないと感じる今日此頃です。(機械・昭和54年修士修了・塩野義製薬(株))

今日此の頃思うこと

中佐 一重



大学を卒業して早いもので、もう7年を過ぎました。

同窓会については、卒業した頃は、社会人一年生ということで比較的時間の余裕もあり頻繁(年2~3回)に行っていましたが、7年も過ぎるとみんな会社では忙しくなるし、一方では結婚をしたり、子供ができたりしてなかなか参加する時間がないのが我々の年令です。こう書いている私も例外ではありません。

ところで、私事になりますが、昨年まで2年間東京に転勤していましたが、その間、建築学科卒業生(都島工専の先輩も含む)による建築会の東京支部ができ、私も何回か参加しましたが、みんなの集りはよかったです。大学のある大阪を離れた東京での同窓会ですので、なつかしさがつり、少しぐらいの忙しさは押し出さる人も多いのでしょう。

工学会報は、同窓会に出席できない者にとって、大学や同窓の近況を知る上でありがたい存在ですが、今後は、同窓会や各種催しにもなるべく参加してゆきたいと思っていますこの頃です。

(建築・昭和52年卒・(株)市浦都市開発建築コンサルタンツ)

読み、書き、そろばん

藤井 修

はやいもので大学を出て、もう10年になります。技術革新が速いものですから、会社の内容も大きく変わっています。今は優良企業と呼ばれても10年後はどうなっているかわかりません。会社の業績はバランスシートでわかります。しかし、それでは「人的資産」、「技術力」のようなものは記されていません。今後、こういったものも含めて価値基準が変わると思われます。個人でも同じで、「技術力」、「人脈」、「趣味」など何項目かに分けて再評価してみるのもおもしろいものです。後悔先に立たずで、学生時代もっと勉強をしとけば良かったと感じます。特に感じますのは、言葉の遊びです。私もそうですが、工学部出身者に国語が苦手な人が多いように思われます。昔から読み、書き、そろばんが基本ですが、その通りだと思います。この5年程で読んだ本の数がそれまでより倍になります。何はともあれ健康第一です。皆様方のご健康と今後のご発展を、御祈りしております。

(応物・昭和47年卒・シャープ株)

思いつくまゝに

南口 栄志

投稿拒否をしようかと思ったのだけれども、それでは愛想が無いので、とりあえず何か書きます。

体験談として、3回生の時に学生実験で、私の班の3人全員で真空ポンプをこわしてしまった事がありました。その体験が現在の自分に生かされていないのは残念な事です。

クラス会は、2年前の年末に集まってからは、大規模なものは開かれていないようです。そろそろ、クラス会を開いても良い時期だと思うので、皆に働きかけてみるつもりです。母校後輩への提言は、とくに思いつきません。

私の技術観は、目まぐるしい進歩のため、今だに定まった考えは有りませんが、驚きの心で頭に刺激を与えるようにして、対応できるようにしたいと思ってます。何といっても、人間が技術を利用するのであって、進歩した技術に人間が振りまわされるのは、本末転倒だと思います。(応物・昭和52年卒・大学院応用物理学専攻)



工学部杉本学舎(昭和59年10月)

日々雑感

前原 克彦



学部を卒業して早くも2年と半年が過ぎました。57年機械卒の皆様はいかがお過ごしでしょうか。就職して3年目ともなると、そろそろ仕事のペースもつかめてきて、適当に預金も出来て、嫁さん候補も現われたりなんかして、誰かさんには子供まで出来てたり……なんて姿を想像してしまいます。

かく言う小生は、今春やっと修論を提出して社会に出たところで、まだまだ学生気分の抜けない今日この頃。むしろ決まった日に休みがきちんと取れる分だけ、院生時代より遊ぶ時間は増えているとちがうやろか、なんて事も思ったりしております。もっとも、朝寝と昼寝ができないのはつらいところですが。

立場はどうあれ、私は日々の生活に流されたくないと思います。そのためには、たとえ短時間でも非日常的な世界に身を置きたいと思います。芸術でもいい、自然の中に入るのもいい。こんな考え方、一足先に社会へ出られた皆さんは、どう思われるでしょうか。

(機械・昭和59年修士修了・神戸製鋼株)

江の島発

田邨 裕幸



江の島に沈む夕陽は美しい——
逗子マリナーにて。

卒業して早や半年、鎌倉の生活にも大分慣れてきた。友を大阪に残してきて時に寂しくなることもある。こんな時、横浜で市大の仲間と会うと、何かしらとてつもなく嬉しくなる。湘南の海岸を歩くと青春ドラマの真ただ中にいるようで、楽しかった学生生活がよみがえってくる。社会に出てはじめて、学問の基礎を重視する市大の自由な学風は、技術革新の激しい時代であっても柔軟に対応できることを実感した。

……… ここで、しみじみと哀愁の感 ………

年一回の同期同窓会は、たやすことなく続けていこうと思う。

最後に、母校のますますの発展と先輩方、後輩の皆さんのご活躍を心からお祈りします。

追伸——鎌倉へお越しの折には是非連絡して下さい。
観光案内承ります。

(電気・昭和57年卒・三菱電機株鎌倉製作所)

大学生生活

鈴木 健司



大学院を卒業するまでの6年間、私にとって大学生生活の自由さというものは、非常にかけがえのないものであった。勉学はもとより、非常に多岐にわたる物事に興味を持たせたのは、大学生活ならではの事であっただろう。

現在私は、会社で研究活動にいそしんでいる。一つの物事を創造し、成就するためには、さまざまな角度から絶えずそのものを凝視する目が必要だ。そのためには、広い視野を持つということが当然の必須条件になってくる。その点大学時代は、いろいろな物事に興味を抱くことができ、じっくりと思索する時間を持たせたということで、視野を広めるという意味から言っても、非常に貴重な時期であった。

現在、私が学生の皆さんに切望することは、ぜひとも自由な大学生生活を有意義に過ごし、視野の広い考え方ができる人間になってもらいたいということである。

(応化・昭和57年卒・鐘紡織)

初めての現場実習を終えて

高橋 真一



私は、今年の春に大学院前期博士課程を修了し、今は建設会社の一つ大林組の技術研究所に勤務しています。春の新入社員教育期間中には、2週間の現場実習がありその時の感想等をここで書きたいと思います。土木工学科では、在

学中現場実習を3年生の夏休みを利用して行っており、私もその時、1ヶ月余り国鉄にお世話になったことがありました。前回は学生として、今回は、実際に作る側としてと立場は異なりますが、現場に学ぶということにかわりはなく、今回も色々とためになったと思います。特に学生の時にはあまり感覚として持っていなかった安全への十二分な配慮にはおどろき、また現場を見るたびに思うことですが机の上での話と実際のギャップは常に現場をイメージしながら仕事、研究を進めることの重要性、そしてまたそこから土木のおもしろさを改めて感じました。また、技術的な問題とは別に、人を動かすことのむずかしさも改めて感じた現場実習でした。

(土木・昭和57年卒・大林組)

関東における工学部同窓会の動静

片井 振武

同窓会事務局から、関東における同窓会活動の状況を書いて欲しいとの電話をいただいた。突然のお話だったが、関東での同窓会を見直し、今後のことを考えるのに良い機会だと思い、思い付くままを纏めることにした。

機械工学科の同窓会は、「こいさん会」という名で昭和31年から続いている。当初は、ハイキング旅行やボーリング大会に加え、当時ジェトロの調査第一課長であった岡本昌雄氏(昭和28年商学部卒・現野村総研常務)を招いて勉強会を催したこともあった。最近では毎年11月に忘年会形式で、和やかな雰囲気の良いひと時を過している。田中康弘名誉会長(昭和21年卒・北千住ターミナルビル専務)のもと20~30名が集まり若手の参加も多い。

建築学科の同窓会は、中村俊雄氏(昭和33年卒・長谷川工務店常務)のお世話で毎年秋に懇親会を開催、鈴木成文東大教授や栗原一嘉郎筑波大教授をはじめ各層の多士済済の顔ぶれが集まり、若い同窓生も積極的に参加して熱気の満ちた集いを続けている。

数年前、土木工学科の同窓会と合同で40数名が出席した赤坂での盛大な集いが印象に残っている。そういった折も折、福村直樹氏(昭和47年・応化大学院修士・国際特許事務所社長)が、新しい事務所を構えたのを機会に私を訪ねてくれた。話がたまたま全学科同窓会のことになり、「諸先輩の活躍振りを目にして、大いに啓発を受けたい」との強い希望があり、「大阪の学校を出て関東で在住する我々にとって、できれば年一回程度の同窓生の集まりを持ちたい」と云う話になった。

同窓会に出席したときは、いつも遠慮の無い親しさを感じ、愉快的気持ちで帰途につくことしばしばで、珍談奇談そして成功談や失敗談など聞けるのは、同窓会ならではのことでないでしょうか。私の場合、とくに人好き、情報好きで、同窓会への関心も人一倍強いかも知れない。

高度情報化や急速な国際化が叫ばれ、激しい変化を読み取りそれに適応しなければならぬ社会で我々が生き抜くためには、猛烈に勉強して新しいことに挑戦することが要求される。同窓会も、単なる懐古趣味だけでなく、若い感覚を含めた色々な考え方に接し、各界で活躍している同窓の生の声を聞いて情報交換することに大きな価値があるのではないのでしょうか。

期せずして垣根を越えて領域を広げる場、異業種交流の場を提供することになる各科合同同窓会は、この多難な時代に前向きに捉えれば意義のあるものと思はれる。

現況を報告するには、各科の同窓の動静を知らなすぎることをお許しいただき、皆様のご協力で関東での全学科同窓会の実現に向って頑張ろうと思う。早急に各学科同窓会代表と話し合える機会を持ちたいと提案したい。

(機械・昭和22年卒・山田工業(株)部長・03-563-4211)

事務局年報 ('82・11～'84・11)

'82年11月…会報第3号を発行。

'83年1月…理事会で第3回評議員会議案書を検討(22日)。

2月…大阪市立大学田中記念館にて第3回評議員会および懇親会を開催し、次の事項を承認(5日)。

(1)第5期('81・1～'82・12)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(単位円)

収入の部		支出の部	
終身会費	6,913,500	第2回評議員会	132,945
臨時協力金	378,000	第3回評議員会	23,000
第4号名簿	115,700	第2,3号会報	1,967,040
預金利息	658,311	事務局経費	1,671,061
		貸倒損(名簿代)	5,000
		次期繰越金	4,266,465
合計	8,065,511	合計	8,065,511

(ロ)貸借対照表(昭和57年末日現在、単位円)

借方		貸方	
手許在高	5,185	剰余金	8,439,667
振替口座	12,604	特別基金(元利)	12,770,785
預金(元利)	21,192,663		
合計	21,210,452	合計	21,210,452

(2)役員改選(P.15参照)

主な異動は、副会長が高田満氏から蔵田廣造氏に、理事の大橋岩男氏が植木正富氏に代ったこと。

(3)第6期('83・1～'84・12)事業計画

(イ)会員名簿第5号を昭和58年12月上旬に予約者へ配布。

(ロ)会報第4号を昭和59年12月上旬に全会員へ無料配布。

(ハ)昭和58、59年度に年200万円づつ特別基金を積立。

(4)第6期予算(単位万円)

年度	収入の部		支出の部		
	58	59	年度	58	59
前年繰越金	843	211	特別基金	200	200
終身会費	340	340	評議員会	15	3
預金利息	40	40	名簿第5号	706	
名簿第5号		400	会報第4号		105
名簿賛助金		100	事務局経費	91	92
			繰越金	211	691
合計	1,223	1,091	合計	1,223	1,091

第3回評議員会の報告を欠席者へ発送(8日)。金田龍之介(機24年度)氏後援会より、団体観劇の案内を入手(但し、竹内ミサ子さんに私的な処理を依頼、15日)。

3月…筒井一夫(機22年卒)氏よりの寄附金を收受。58年度学部・大学院合格者に会則等を配布(18日)。学部主催の送別会(当会の鏡割り併催)に会長、理事有志が出席(24日)。

5月…特別基金の58年度積立分を領入(9日)。

6月…第5号名簿編集委員会が発足(3日)。

7月…同窓会事務局の小島五月枝さん退職(末日)。

10月…三瀬工学部長より、9月22日の教授会で

「工学部創立40周年記念事業委員会(委員長：安藤慶一教授)」の発足の連絡と協力依頼(4日)。

12月…第5号名簿を発行(6日)。記念事業委員会より事業資金の一時借用依頼(10日)。

'84年1月…理事会で事業委員会の資金借用依頼を臨時評議員会の討議にかけることを決定(7日)。

2月…学内理事(11名出席)と事業委員会の初懇談で事業委員会が計画説明と協力要請(10日)。有恒会東京支部の同窓会組織一本化決議を收受(15日)。文化交流センターで開催の臨時評議員会で次のことを決定。

(1)記念事業には協力する。ただし計画の再検討を求めること。(2)事業委員会への貸出は昭和59年末までで、経常費の余裕額以内で理事会が処理すること(21日)。

3月…理事会は、学術談話室(仮称、旧教職員や卒業生も技術情報の交流に利用)の設立を主とする事業計画(募金目標：3000万円)への協力および、事業委員会の資金受け入れが整い次第貸出することを決定(23日)。昭和59年度学部・大学院合格者に会則、入会案内を配布(17日)。学部送別会(当会の卒業祝鏡割り併催)に会長、理事有志出席(23日)。

4月…昭和59年度入学式で234名の新準会員が確定(11日)。特別基金の59年度積立分を領入(19日)。

5月…記念事業委員会へ200万円貸出し(17日)。事務局員の竹内ミサ子さん(昭和54年7月採用)退職(末日)。

6月…事務局員(竹内さんの後任)に住岡靖子さんを採用(1日)。大阪市立大学工学部創立40周年記念事業後援会(注)が発足(2日)。(財)大阪市立大学後援会第25回評議員が100周年事業の完了を確認(13日)。

8月…会報第4号編集委員会が発足(30日)。

9月…第6期第3回理事会で、会報第4号発行計画および竹内さんの退職一時金を了承。次期役員候補の選出方法を検討(とくに、2期4年間つとめて下さったことであって、今期限りで退任のご意向の強い井田会長への留任要請、および次期副会長候補への依頼など)。

10月…第7期副会長候補の人選完了(1日)。

11月…会報第4号の発送(20日)。

(注)

この後援会は、工学部が推進される記念事業に要する寄付金品の募集を後援するため、母校をご退職の諸先生と、当同窓会の現・旧役員の大半を含む卒業生有志のご協力により、昭和59年6月2日の発起人総会で設立されました。その後、常任理事会や理事会等の議を経てお手元の募金趣意書が作成されました。そこでは、昭和60年7月14日までに3000万円のご寄付を得ることを目差されています。そして、その会則では、目的が達成できるか、評議員会の議決によって解散されることになっており、募金期間を延長されることもありそうです。なお、解散時の残余財産は、工学部(大阪市)に寄付されます。

役員名簿 (昭和59年12月末迄)

会長 井田 憲治 (土木30) 副会長 蔵田 廣造 (機械22)
 理事 東田 和郎 (機械20) 入見 宗男 (機械31) 南齋 征夫 (機械41修) 東 恒雄 (機械41)
 塩山 正治 (電気23) 中島 弘 (電気25) 岡本 次郎 (電気39修) 南 繁行 (電気47修)
 井口 悌三 (応化28) 大橋 邦夫 (応化32) 玉垣 誠三 (応化44博) 大嶋 寛 (応化51修)
 坂内 幾男 (建築24) 多胡 進 (建築39博) 赤崎 弘平 (建築45) 楠木 正富 (土木24)
 中井 博 (土木36修) 西村 昂 (土木38修) 倉田 克彦 (土木44修) 北田 忠義 (応物36)
 田守 芳勝 (応物38) 石黒 英治 (応物42修) 茶谷 修治 (応物50)
 監事 保坂 博通 (応物34)
 評議員

卒業	機 械	電 気	応 化	建 築	土 木	応 物
20	宝力良幸	安藤慶一	—	高野孝	能城正治	—
22	清久泰一	—	—	高橋通男	埜口良二	—
23	嶋田定	山田悦三	—	西川幸之輔	小谷昇	—
24	大月正雄	金田弥吉	—	—	松下勇	—
25	葉田喜一郎	安藤周二	—	大東清四	生島一成	—
26	副松晃	太田鉄造	—	小河一真佐	井上保	—
28	中川晴夫	橋本賢一	岡本由之	福田充宏	—	—
29	日枝仁郎	立石浩二	田岡二郎	—	田井戸米好	—
30	杉浦重光	金田幸雄	岩井武彦	田口泰三	豊田敏	—
31	秋山高治	壺井芳昭	小林辰一	安藤昌範	嶋経夫	—
32	中島光夫	加藤隆三	木下雅悦	長町守康	吉村懔	北林進
33	小西峻二	細川省一	福村吉晃	内藤徹男	高端宏直	薩摩逸雄
34	久門輝正	小西陽雄	上原敏男	木村久夫	山崎真喜雄	西田新
35	川越浩	石田喬重	門章	小島弘	上田伸三	粟根克昶
36	小川次夫	塩飽弘	中出伸一	溝神宏至朗	園田恵一郎	村上宏
37	尾崎俊夫	高下照久	近藤紘一	八木勝	西垣好彦	西村仁
38	河内秀二	森下昂	浅岡力	有光友興	小田一紀	嶋谷宏之
39	土井紀宏	長井一郎	渡辺隆夫	木本英爾	高田直俊	室野義隆
40	小川健一	倉田一之	五百井正	浅野誠	山田優	片山逸雄
41	溝口進	森井征治	山口英昌	貴志義昭	湊勝比古	川島順弘
42	村田一夫	片岡二郎	三浦洋三	坂寿二	望月秋利	八木邦夫
43	木村義弘	坪香英一	伊木義雄	荒木弘	北田俊行	堀内泰男
44	松下義治	山本正樹	谷本高敏	大倉良司	角野昇八	萬代信司
45	七條徳成	梅本伸作	鈴木晃	久保田弘昭	小林治俊	和倉慎治
46	上道俊和	森下勉	山田倍	大西康雄	伊藤忠	岩永良一
47	岡本利一	赤木利行	吉田育義	三宅良一	山本修章	藤井修
48	辻本良秀	河合寿夫	林正博	井上清司	岸田全玄	田中義英
49	三木健一	広瀬義晃	西田隆仁	国田幸雄	谷俊寛	岩井健
50	中野康夫	金沢勝己	門脇敏夫	北野博己	黒山泰弘	小森優
51	坪倉由明	前谷治男	米田正博	岡崎道晴	長谷川良一	平松敏朗
52	山中朗	寺井賢一	大屋尚洋	中佐一重	松本博司	南口栄志
53	榎本秀和	三上明義	親木康高	田中三郎	奥村彰彦	太田豊治
54	芦田史史	松下行雄	中川弘	伊勢博幸	富岡健一	末国克己
55	大山寛	串坂徹	大槻荘一	永島敏朗	川口和也	多良勝司
56	松吉徹也	向井博臣	梅田尚	小西浩夫	安藤亨	真鍋幸一郎
57	前原克彦	田邨裕幸	鈴木健司	高本永寿	高橋真一	山本弘
58	鈴木浩文	里見勝治	山本喜久	大谷康晴	阿倍功	村岡直
59	仲薮佳典	団栗知男	田中修	山脇武志	尾川仁俊	松島恭治